

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 6 月 9 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	中村泉

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
霊長類研究所、犬山市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ゲノム科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 5 月 30 日 ~ 平成 28 年 6 月 3 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学霊長類研究所 早川卓志特定助教 岡本宗裕教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本実習では、屋久島実習で収集したイチジクの葉やイチジクコバチ等昆虫をサンプルとして用い、DNA シークエンス解析により、それぞれの塩基配列を決定し種を同定した。また系統樹を作成し、イチジクとイチジクコバチの関係を見た。</p> <p>5/30 DNA 抽出 5/31 DNA 抽出、PCR 6/1 PCR 産物の精製 シークエンシング 6/2 シークエンス解析 6/3 ディスカッション</p> <p>6/7 The 5th International Seminar on Biodiversity and Evolution: New Methodology for Wildlife Science ポスター発表</p> <p>屋久島で収集したサンプルを用いて DNA シークエンス解析を行った。屋久島でイチジクとイチジクコバチは 1 対 1 の共生関係にあり、また共進化していると言われている。本実験ではその関係を実際に確認し、また寄生蜂とイチジクコバチの系統関係も明らかにすることを目的とした。 結果は信頼性の高い系統樹を作成することができなかつたため、イチジクとイチジクコバチの共生関係等確かめることはできなかつた。</p> <p>実習では一週間でデータをそろえる必要があり終始時間に追われていた。その中で屋久島実習からの結果をメンバーと分担しながらまとめていく作業や英語でのディスカッションに苦労した。また作業を行う中で記録の不足や様式が統一されていないといった問題点も多くあり課題の残る実習となった。シークエンス解析の結果もデータとしてきちんとしたものを示すことができず大変悔しく感じた。 実験において正確な記録を残しておくことや、班員と情報を共有し、記録様式を統一することは、実験の基本的なステップである。今回の経験を今後の私自身の研究に活かしていきたい。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 2 DNA 抽出作業 (撮影：早川さん)



図 1 解析作業 (撮影：早川さん)

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの支援のもと実施されました。指導して下さった早川先生と岡本先生をはじめご教授くださった皆様に感謝申し上げます。